



藤井浩人 月刊マガジン

text and photographs by Hiroto Fujii

第49回衆議院議員選挙

今日から11月、と言いたいところでしたが、選挙後の昨日もバタバタしてしまい、1日遅れのお届けとなってしまい申し訳ありません。

31日は第49回衆議院議員選挙の投票日でした。私は、金子俊平事務所の秘書として、今回の選挙活動に四六時中従事しました。

結果は、金子が小選挙区で当選することができました。選挙活動にご理解いただいた全ての皆さんに感謝申し上げます。



選挙と政治家

候補者として選挙を経験した私としては、選挙に関わる全ての人、そして、名前を晒し、人生をかけ、勝負を挑む全ての候補者の方々に心から敬意を表したいと思います。

選挙は点数評価ではなく、一択しか選ぶことができない残酷な制度です。地元では馴染みの深い今井雅人先生は、精力的に街頭に立ち、多くの市民の皆さんと顔を合わせ、意見を交わされていました。政治の原点であり、見習わなければならない姿勢、そのものだと思います。

また、今回の選挙では隣の岐阜第5選挙区から、25歳の新人候補者が立候補されました。私は26歳で市議会議員選挙に立候補し、あたふたしていましたが、彼女の演説には迫力があり、限りある時間の



藤井浩人 月刊マガジン

text and photographs by Hiroto Fujii

中で多くの支援を得ました。政治への関心が薄れていると言われ続けていますが、関心のある私たちが、政治や政治家への敬意を払うことを大切に、多くの人を巻き込んでいけたら良いのではないかと思います。

選挙のその後、選挙制度

そして何より、選挙はゴールではなく、大切なのはこれからです。選挙を通じて政治家が訴えたことが、私たちの生活や未来に実現されているのか私たちが確認しなければなりません。

私の個人的な考えですが、変化の激しい時代、また、価値観が多様化している世の中で、4年に一度の選挙で多くのことが決定してしまうような仕組みは、時代に合わなくなってきたように感じます。

頻繁に選挙を行うことは不可能だと思いますが、政治家が国民、市民の意思を丁寧に確認する機会を積極的に創っていくことが必要ではないかと思います。

今回の選挙でも、政治家本人からは、ハガキや電話、演説会に加えて、Twitter、Facebook、YouTube、LINEなど多くの媒体を通じて情報発信が行われました。

もはや、政治家に声を届けることが難しい時代ではありません。私たち一人ひとりの市民が、政治家に対して賛成意見も反対意見も新たな提案をどんどん言えるように、考えておくことが必要だと思います。



藤井浩人 月刊マガジン

text and photographs by Hiroto Fujii

ハロウィン企画

8月に浴衣イベントを仕掛けた仲間と、10月31日のハロウィンイベントを企画しました。

コロナの影響により、多くの行事がなくなってしまった子どもたちや家族が楽しめるようなイベントを、安全な環境で行うことができないか、企画しました。私は、選挙日程が重なってしまったことから多くの時間を割くことができませんでした。仲間の努力と多くの賛同者の協力により、素敵なイベントができました。



「コロナの影響が深刻になった時には中止にしよう」という前提で、早くから企画したイベントが滞りなく実現できたことは感動そのものでした。

この冬も多くのイベントが既に中止されています。選挙ができた10月、どれだけのイベントが中止になってしまったのでしょうか。私たち大人はともかく、本来なら経験できたこと、感じることもできたことが一年、そして一年と失われてしまっている子どもたちにできることは何なのか、もっと考え、実現できたらと思います。